

平成19年度第3回横浜市次世代育成支援行動計画推進協議会会議録	
日 時	平成20年3月27日(木) 14時～16時
開催場所	ホテル横浜ガーデン4階アイリス
出席者	高橋 勝委員、伊志嶺美津子委員、保坂シゲリ委員、奥山千鶴子委員、渡邊 英則委員、菱川 広昭委員、土山 由巳委員、小林千恵子委員、井上 美穂委員、飯田 正二委員、杉浦 尚子委員、藤川 祥子委員、岸本 孝男委員、杉山 彰市民活力推進局副局長(成田 憲一委員代理)、中川 秀夫金沢区副区長(横松 進一郎委員代理)
欠席者	渡辺 久子委員、上野 和夫委員、押尾 賢一委員
開催形態	公開(傍聴者1人)
議 題	1 「横浜市青少年プラン」との統合について 2 平成20年度達成目標及び「重点テーマ」の選定について 3 後期計画策定に向けたニーズ調査について
決定事項	1 「横浜市次世代育成支援行動計画」と「横浜市青少年プラン」を資料1のとおり統合する。 2 平成20年度達成目標を資料2のとおり設定する。 3 平成20年度重点テーマについて、次第(議事(2)-2)のとおり選定する。
議事	
1 「横浜市青少年プラン」との統合について	
(事務局) 統合案について、変更か所を中心に説明。	
(高橋会長) タイトルに「こども青少年プラン(仮称)」とあり、子どもという概念と青少年という概念が一緒になっていますが、一般的な言い方ではありません。どのように考えていますか。	
(事務局) 青少年を0歳からと定義している法令や国の文書もありますので、青少年だけでいいのかもしれませんが、青少年からは乳幼児期が連想しにくいので、こども青少年という言葉を使っています。	
(渡邊(英)委員) 乳幼児期から青少年期まで一貫したプランとなりますが、様々な施策を進めているにも関わらず、青少年期に問題が生じてしまうということのないよう、議論していく必要があります。	
(保坂委員) 妊娠・出産のことについては、この計画のどこに出ていますか。	
(事務局) 現行の行動計画は妊娠・出産についての記載がなく、今回の統合でも、青少年プランとの統合以外には手を入れていないので、掲載されていません。	
(保坂委員) 妊娠・出産について安全かつ安心なシステムがなければ、次世代育成支援になりません。大きな社会問題ですので、ぜひ追加していただきたいと思います。	
(事務局) 次期プランの中ではきちんと掲載していきたいと思います。また、年度ごとの事業目標の中で事業を進捗していければと考えています。	
(藤川委員) 子育ての環境について、道路の問題、環境の問題などこども青少年局以外の課題についても、ほかの局にも積極的に働きかけていただきたいと思います。	
(土山委員) 障害児の居場所づくりについて、ただの預かり事業ではなく、親の療育力をつけてもらいたいと思います。支え方を教えてあげられる、そういう居場所づくりであってほしいと思います。	
(渡邊(英)委員) 子どもの支援は、教育委員会や学校と連携しなければできません。子どもの居場所を考える場合に、学校を意識しながら考えていったほうがいいと思います。	
(杉浦委員) 今の子どもたちは公共という視点が育ってっていないと思います。どのように自立していくのか、生活実感の体験が盛り込まれたプランであってほしいと考えます。	
(奥山委員) 青少年期の問題が、乳幼児期の問題とどうリンクしているのかということを見極められるように、この統合プランが進んでいけば意味があるだろうと思います。	
(小林委員) 仕事と子育ての両立支援について、第1子と第2子が別の保育所に入所しているなど、仕事と子育てが困難という事例を聞きました。待機児童が多いという状況はわかりますが、ぜひ、解消していただきたいと思います。	
(伊志嶺副会長) 青少年の居場所は、居場所で何をするのが大事だと思います。青少年が主体となって街をつくっていく、自分たちの居場所を感じられるような環境整備をしないと自立が難しいと思います。	
(菱川委員) 私どもの地域では学童がパンク状態です。既存の居場所が足りないということで、居場所の確保に躍起になっているのですが、保育現場から見ると、同時に質こだわっていただきたいと思います。	
(飯田委員) 不登校やひきこもりなど見えやすい課題はプランにも取り上げられていますが、それ以外の子ども	

もたちもたくさんいます。学校には行っているけど勉強は全然できない、たばこは吸う、お酒は飲むという子たちにも何か方針を立てる必要があるのではと思います。

(高橋会長) いままでの議論では、この統合案について反対だという意見はなく、ここを補強してほしい、盛り込んでほしいという意見がほとんどでした。この案の方向で「かがやけ横浜子どもプラン」と「横浜市青少年プラン」を統合することについては、承認いただけますでしょうか。ありがとうございます。

また、名称について、「かがやけ横浜子ども青少年プラン」(仮称)とありますが、名称についてもこの形でよろしいでしょうか。ありがとうございました。

2 平成20年度達成目標及び「重点テーマ」の選定について

(事務局) 資料について説明。

(高橋会長) まず、前半の平成20年度達成目標について御意見・御質問があればお願いします。

ないようでしたら、後半の平成20年度に協議する「重点テーマ」の選定についてですが、事務局から2つの「重点テーマ」(案)が出されました。いかがでしょうか。

(保坂委員) このテーマと20年度達成目標はリンクしているのか、現在達成目標には入っていないものは、議論をふまえて今後つけ加えるのかということをお聞きします。

(事務局) 2つめの「地域全体で子どもを見守る」ということについては、理念の部分と、事業のいくつかに盛り込まれています。1つめの「ワーク・ライフ・バランス」については不十分だと思っていますので、後期計画にどう盛り込んでいくのか、それも含めて議論いただければと考えております。

(保坂委員) ワーク・ライフ・バランスについて、厚労省・内閣府も短時間勤務などを進めていますが、横浜市でも市内企業でモデル事業を実施する、あるいは市の職員についても考えていただきたいと思います。

(杉浦委員) 義務教育の中で、子育て、税・法律など、社会人として学ぶべきことを教えておくべきではないかと思います。父親の子育て参加、ワーク・ライフ・バランスも含めて、地域全体でどのように社会人としての基本を身につけてもらうかということをお話し合いたいと思います。

(渡邊(英)委員) 親が自分の子どもだけではなく、人の子まで見るという視点が必要だと思います。親が子育てを通じて地域にかかわれるよう、保育園・幼稚園の中に親をどう巻き込んでいくのが重要です。

また、保育園・幼稚園は、駐車場の問題や騒音など、地域の中でじゃま者扱いされたり、温かく見守ってもらえなかったりしますが、地域の人に理解を求めるとともに、保護者にも、子どもたちが公園や散歩など地域に出かけていくことを伝えていく必要があります。

(菱川委員) 父親の子育て参加について、欧米では20~30年前にこの段階を経験しており、例えば、ヨーロッパでも男性も早くから子育てに積極的だったということではありません。施策的に推進していった確立してきたという経緯があります。いろいろな国の取組を参考にさせていただけたらと思います。

公共意識をどう育てるかという点ですが、ある方が完成形を与えてはいけなと言っていました。例えば、駅にエレベーターをつける際に、まず、スロープをつけて、どれだけ大変かということを見せながら、市民の中でエレベーターをつけようという機運が高まってくる、というお話を聞きました。過程を見せていくという部分は忘れてはいけな課題だと感じています。

(高橋会長) 市民が一緒に町をつくっていく中で行政が仕事をするということだと思います。逆に、市民が消費者になって、必要なものを行政に求めていくというのは非常によくないと感じています。

(奥山委員) ワーク・ライフ・バランスは働き方の見直しなども大きいので、行政や地域ができることは限られていると思っています。父親の育児参加について、私たちが運営している地域子育て支援拠点「どろっぷ」では、パパが来やすい工夫をしていますが、日中にお父さんが行く場所は限られています。企業に「働き方の見直し」を働きかけるとともに、地域でできることを今後は開発していくことも大事になると考えています。

公共意識についても、地域に知り合いがないなど公共意識を育めないことがあると思います。子育てを地域が支えていく中で、役割分担というよりも支え合いにつながるような流れをつくっていくことが大事だと感じました。

(伊志嶺副会長) ワーク・ライフ・バランスの支援について保育所整備があげられていましたが、ワークが強調されて、ライフは二の次、三の次ということになってしまうと思います。ライフをいかに充実させていくのかということについて議論していきたいと思います。

(高橋会長) 重点テーマについては、案の2つに反対の方はいらっしやらなかったと思います。

1つめは、仕事と子育てなどの家庭生活、地域活動を両立できる「ワーク・ライフ・バランス」の実現については、ライフを充実する方向で議論をしたいということでした。この5~6年は世界で日本人が一

番働き過ぎているという結果があります。もっと生活や生活の質をしっかりと見直す中で子育てをしないと子どもが犠牲になってしまうという思いも私の中にはあります。

2つめは、地域と、子ども・子育て家庭それぞれが、地域の一員として、子育ての意義や、それぞれの役割を共に認識するためにはどうするのかということです。子育てを孤立した状態から、みんなの協働の事業や活動にしていく、あるいは公共的なものにしていくという議論をこの場でしたいという御意見が多かったと理解しています。20年度はそういった形で進めていくということによろしいでしょうか。・・・ありがとうございます。それでは案にある2つを次年度は「重点テーマ」にしたいと思います。

3 後期計画策定に向けたニーズ調査について

(事務局) 資料について説明。

(藤川委員) 保護者に対するアンケートは、母親が回答することが多いと思います。ワーク・ライフ・バランスや男性の育児参加を進めていくのであれば、回答者の性別や立場などを質問していただくと、今後の役に立つと思います。

(事務局) 前回の調査でも、アンケートにお答えをいただくのはどなたですかという質問項目があります。

(渡邊(英)委員) 青少年指導員の方、保護司の方、児童相談所、教育委員会の生活指導の先生などに意見を聞いて、子どもたちの問題がなぜ起こるかを知る必要があると思います。幼稚園・保育園の乳児・幼児クラスでも、子どもの問題ではなく、その後ろにある親の課題、夫婦関係などの背景を子どもたちが背負ってきています。何が課題なのかを事例研究などにより把握すべきだろうという気がします。

(井上委員) ニーズ調査結果の中で、こども青少年局以外のニーズについても、それぞれの局へフィードバックしていただけたらと思います。

(伊志嶺副会長) 今後のスケジュールについて、「重点テーマ」は5月に協議するとのことですが、ニーズ調査とはリンクしないということでしょうか。

(事務局) 後期プランの理念や枠組みをつくる上で重要な部分として議論をしていただこうと思っておりますので、ニーズ調査と絡めながら、毎回になるかどうかはわかりませんが、機会があるごとに議論いただきたいと考えております。

(高橋会長) 具体的な議論については、次回5月の議題にしたいと思います。ありがとうございました。

その他 平成20年度予算概要について

(事務局) 資料について説明。

(坂委員) 新規事業の妊娠期から産後早期の支援の2「こんにちは赤ちゃん訪問事業」の新規実施に関して、地域の方々が区役所と連携しながら、生まれたばかりの赤ちゃんがいる家庭を訪問して支援をすることは、うまくいけば非常に大事なことだと思いますが、訪問する方の質をどう担保されるのでしょうか。

(事務局) 私どもと区役所で定期的な研修等をしながら進めていく予定です。地域の方々といたしましては、主任児童委員、民生委員、子育て支援者、区によっては子育て関連の事業の従事者、広い意味では先輩ママのような方を想定しています。

(土山委員) 3 学齢期の障害児支援の充実で、中学校・高校と限定されていて、学齢前期の小学生の部分が落ちているかと思います。学齢前期の部分もどこかで入れていただきたい思います。

(事務局) 主に学齢後期ということで、学齢前期については、既に地域療育センターで対応しています。

(奥山委員) 「子育て家庭応援事業」ですが、委員からは、子育て家庭を消費者として扱わないという話が出ていますが、ここに「お得なサービス」とあるのは消費者的な感じがします。子育てに優しい「まちづくり」という視点で取り組むべきかと思っています。

(事務局) この事業をアピールするためにこのようなキャッチコピーを使っております。子育て家庭を消費者としてとらえているわけではなく、地域全体で子育て家庭を応援する機運を醸成することが目的です。

(菱川委員) ベビーカーを持っていること自体を証として、ベビーカーを持っていたらバスは無料、地下鉄は無料ぐらいの心意気を、先々で構いませんので考えていただけたらと思います。

(高橋会長) 時間になりましたので、ほかに意見がないようでしたら、20年度予算については以上とさせていただきます。

資料	1 次第
	2 (別紙)「かがやけ横浜こども青少年プラン(仮称)」(案)
	3 (別紙)平成20年度達成目標
	4 (別紙)平成20年度予算概要

